

## 北杜市生涯学習推進計画（素案）に関するパブリックコメント募集の結果について

「まなびあい つながりあう 杜のまち 北杜」の実現を目指した「北杜市生涯学習推進計画」の策定にあたり、パブリックコメントを実施したところ、貴重なご意見を市民の皆様からいただきました。

ご意見については項目ごとに整理し、それに対する市としての考えについて以下に示します。

実施期間： 令和5年1月6日（金）から令和5年2月6日（月）まで

意見提出状況： 提出者 2名

意見提出方法： 持 参 2名

## 1 計画全体に係ること

全体的な意見		
No.	ご意見内容	対応と考え方
1	<p>住所は25年前から北杜市にありながら、長年東京と行き来をして、山梨では、玉ねぎとじゃがいもを作り、山を見る生活をしてきて、3年前から定住するようになった。ちょうどコロナと一緒に、北杜市に越してきたようで、生活感がなかったが、コロナが下火になった昨年からふれあい塾とか、音楽会、映画会などの企画に参加させてもらうようになった。そして、北杜市の図書館の素晴らしさも知ったのである。</p> <p>今回の生涯学習推進計画に目を通し、都会とは全く違った充実度に驚き、感動している。アンケート結果には十分目を通していないが、至れり尽くせりを感じ、贅沢を言えば自発的に何かをしてみたいという隙がない。</p> <p>ところが、23区の面積の北杜市では、ちょっと映画を見るのも車まで30分とかで、今は自分で車を動かすことができるが、いつか免許を返納した時、音楽会に行けるのだろうかと思うと自立した80代90代を過ごすにはどうするかを考える。で思いつきだが2つ、検討案を出してみた。</p> <p>その1 地区公民館を区外の人にも貸し出せる工夫</p> <p>古くから無尽の発達した山梨の伝統も生かし、近距離なら車を使って好きなことを、気の合った仲間であらゆることができるには小さな電気自動車や歩きの範囲で集まれる、地区というか、部落というか公民館を使用料を出してでもその地区の人が一人いたら使えるといった開放をできないだろうか。市長と語る会で地域公民館は地域の費用でなんとかしろと言われてもクーラーがつけられないという話が出ていた。お祭りができるようになったら公民館は活躍するだろうが。</p> <p>その2 オンデマンドバスを小型化して共用のタクシーにする工夫</p>	<p>公民館分館施設は、地域住民の学習の場として、生涯学習活動の推進に重要な役割を果たしています。</p> <p>また、少子高齢化や核家族化の進行により、地域の担い手が不足している地域にとっては、住民の交流の場として地域コミュニティの構築に重要な存在であります。</p> <p>分館施設の活用については、今後も、公民館分館施設の整備や活動に対し支援を行っていくとともに、公民館長・主事会議で活用方法等について意見交換し、施設の効果的な活用を図っていきます。</p> <p>また、市民バスについては、市内を4つのエリアに分け、定時定路線方式及びデマンドバス方式による運行を行っており、利用者や北杜市公共交通会議のご意見をいただきながら運行形態について決定してまいります。</p>

## 2 第3章 計画の方向性

6 成果指標（P39）		
No.	ご意見内容	対応と考え方
1	<p>・目標無きがゆえに躍動感に乏しい「計画案」</p> <p>「計画案」の基本目標・基本施策は、第一次・第二次総合計画に沿ってこれまで取り組んできたことを踏襲したもので、新機軸も踏込んだ姿勢も見られないという印象。そのなかで、「成果指標を設定し、「毎年度の実績値の推移を総合的に検証」し、計画の進行管理を確実ならしめようとする姿勢は評価できる。しかし、そこに基準値として示されているのは、令和3年度の実績値のみである。この基準値は単なる足元の、しかもパンデミック渦中の単年度の実績値に過ぎず、8年計画の指標たりえない。</p> <p>過去の推移、将来のプロジェクション(推計・見積)を踏まえた指標が「計画案」に示されていないことは深刻な欠陥である。「毎年度の実績値の推移を総合的に検証する」というが、計画策定時の今まさに済ませていなければならない総合的検証作業を先送りする方便ではないか。ここには、北杜市が直面する深刻な状況を見据えた真剣な取組姿勢は見えてこない。なぜ、「過去」の実績値の推移を、「今」総合的に検証し、そこから得られる個別具体的な行政的課題を「将来」の「計画案」に反映しないのか。数字(=事実・Fact)の裏付けのない目標を掲げるのは責任を回避する姿勢を映しており、今後の8年間の市行政の低生産性を予見させるものだ。曖昧な目標は、半端な成果を約束する。このような責任回避的な組織風土に浸っているのは、北杜市の明日を担う優位若き市職員の意欲も損なわれてしまうことを危惧する。</p> <p>昨春打ち出された「北杜市総合計画」は「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」「チャレンジ北杜」を謳い、「新・行政改革大綱」は「行政改革の手綱を緩めることなく、職員一人ひとりが課題にしっかり向き合い、未来を見据え、変化へ果敢にチャレンジしていく必要」を説く(第1章序論)。この計画案を仔細に見れば、「手綱」は緩く、「課題」は従来の踏襲、「変化にチャレンジ」する姿勢も希薄だ。チャレンジ無きところに、人と文化の「躍動」が生まれるだろうか。本「計画案」は中枢に深刻な問題を孕む。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>市が施策を行うにあたっては、計画という観点から将来への検証が必要であります。</p> <p>ただ、生涯学習などの教育施策における定量的検証を行うことは難しく、目標値を設定した場合、毎年度の成果によって、事業本来の目的や方向性が見えにくくなる場合があります。</p> <p>このため、計画においては、令和3年度を基準値とした成果指標に対して、毎年度どのような推移をたどっているかを北杜市社会教育委員会議において意見や助言をいただく中で検証を行い、その後の予算編成や事業の企画立案に反映していくことといたします。</p> <p>今後も、いただいたご意見を参考にしながら、社会情勢等に対応した取組を推進してまいります。</p>

### 3 第4章 施策の展開、具体的施策

施策の展開、具体的施策（P40～P51）		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
1	<p>・民活 外部に解決を求めよ。</p> <p>生涯学習事業の特徴は、コンビニの品ぞろえにも似た多種多様さである。限られた要員でこれだけの事業内容を扱おうとすれば深刻な人手不足やアイデア枯渇に陥っても不思議はない。外部協力者に支援をたのみ、ともに長期の事業計画を策定したり、運動を組織化して持続可能性を高めたりする工夫が必要である。アウトソーシングがその延長戦で実現できる事業もあろう。このようにして、市職員と外部団体・個人の双方が緊密に連携し、個々の事業についても計画進行管理(PDCA)を回していく形を早急に検討すべき。そのためにはまず生涯学習施設のユーザーにアイデアを問うべき。市職員の管理者マインドとは違った市民の多様な視点から課題の解決策が、少なくとも問題解決のヒントが得られるはずだ。</p>	<p>生涯学習に対するニーズは、時代の変化とともに多種多様化していることから、市民の自主的な取組に対する支援やタレントバンクによる地域人材の活用等により、行政だけでなく、地域全体で生涯学習を推進する体制づくりが重要であると考えています。</p> <p>今後も、市民のニーズの把握に努め、社会情勢に対応した生涯学習施策を推進してまいります。</p>

施策の展開、具体的施策（P48）		
No.	ご意見内容	対応と考え方
1	<p>(1)施設の再編・統合を視野におかぬ「計画案」</p> <p>「基本目標:学びを繋げる環境・地域づくり」の「施策の方向性」として、「生涯学習施設の効率的な管理」の事業内容として「施設の効果的な管理や機能強化を図るため、施設の再編整備(複合化・集約化等)やアウトソーシングの導入による施設運営のあり方について検討する」と記載されているが、頗るわかりづらい。ここは市民に分かりやすく次のように言い換えることを再考願う。「北杜市の財政上持続可能な水準にまで公共施設の延べ床面積を縮減することが喫緊の課題であり、多くの生涯学習施設もその対象となっている。それらについては、現有施設の複合化・集約化を行うことになる。一部施設の供用廃止が避けられない地域においては、「学びの場」と「つなぎの場」としての機能低下をきたさぬよう、また、利用者の一層の機能充実を実感してもらえよう、市民の声を聴きながら慎重に検討を進める。」</p>	<p>■原案どおり</p> <p>公共施設の保有量が多い本市では、老朽化が進行し、大規模修繕や更新が見込まれる多くの施設を何ら対策を講ずることなく、現状を維持していくことは困難であり、公共施設の最適配置が喫緊の課題であります。</p> <p>生涯学習施設についても、合併前の旧町村において整備した多くの類似施設を抱えている状況にあり、老朽化により維持管理コストが増加していることから、施設のあり方の検討が必要となっております。</p> <p>計画においては、こうした北杜市の現状と課題を認識しつつも、利用者の利便性や市民サービスの低下を招かない現有施設の適正な管理を行う必要性があると考えています。</p>

<p>「市民の行動変容を促す行政情報が分かりやすく発信され、市民参加の割合が増加し、「構成で透明性の高い行政運営が実施され、市民からの信頼を得る」(行革の柱4開かれた行政運営の推進「新・行政改革大綱」P22より抜粋)には「計画案」の文言は不十分である。</p> <p>(2) 尽くすべき議論・検討が不十分。時間をかけて「計画」を練り直せ</p> <p>「計画案」では、合併から18年を迎えた北杜市を取り巻く社会的背景や生涯学習の現状から説き起こす。「財政の健全化を最重要課題と位置づけ、……厳しい行財政改革に取り組んできましたが、(中略)、引き続き、効率的で持続可能な行財政運営が求められています。」(P3)「学習活動の拠点となる生涯学習施設については合併前の旧町村において整備した類似施設(公民館、社会体育施設、図書館、資料館)が点在し、維持管理に多額のコストがかかっているため、施設の複合化や統合といった持続可能な施設のあり方を検討する必要があります。」(P4)これら現状については、既に多くの市民が認識している。しかしながら、現存の施設を近い将来どのように複合化・統合していくのかということについて市行政から市民に伝える努力が乏しい。</p> <p>本「計画案」期中にも起こりうる施設の統廃合・再編は、「これまで利用してきた施設がなくなるかもしれない」という厳しい状況認識を市民に迫っている。それにもかかわらず、この「計画案」は、再編・統合という(厄介な)課題に向き合うの避け、従前の事業取組み内容に化粧をほどこした程度のもにとどまっている。本来、今後8年間をかけて取組むべき様々な課題について有意義かつ戦略的な施策を練り上げ、試案として市民に提示して意見を問うべきものではないか。</p> <p>一例として、図書館施設の集約・再編問題を採り上げよう。「新・行政大綱」は、公共図書館を現在の8館を3館程度に集約・再編する基本方針を掲げ、目下「図書館適正配置検討委員会」が昨年7月から既に3回開催されているが、適正規模・適正配置についての踏込んだ議論はいまだ行われていない。また、集約・再編後の姿を明瞭に描けないため、「計画案」には、喫緊の課題も戦略も織り込まれておらず、ただ、「施設の適正な維持管理をおこなう」とだけ記されている。他の公共施設についてもこの紋切り型文言が並ぶ。「公共施設等総合管理計画(改訂版)」の推進工程表にある「個別施設計画」が策定(R4～R5、2022年～2023年)された暁には、この「計画案」はおおかた意味を失うものでないか。計画の廃棄若しくは全面的改訂は行政の生産性を著しく損なう。そもそも、公共施設延べ床面積の4割減という長期課題に取り組む北杜市行政が、総延床面積がわず</p>	<p>その上で、「新・行政改革大綱」の方針に基づく課題解決に向け、施設目的の明確化や機能強化を図り、市全体としての公共施設の複合化や集約化に向けた取組の方向性を示すものであります。</p> <p>なお、検討にあたっては、庁内における横断的な連携による検討と市民目線に立った分かりやすい情報発信を行い、市民や利用者とは共有していくことが重要であると考えています。</p> <p>今後もいただいたご意見を参考にしながら、効率的かつ効果的な施設運営を目指し、情報発信の強化や市民サービスの向上に取り組んでまいります。</p>
---	---

	か1%にも満たず、地域コミュニティの「学び」と「つながり」の中核的役割を担う図書館施設の集約・再編にかくも前のめりに取組むのか、理解に苦しむ。	
--	---	--